



作成日: 2025年12月26日

代表取締役社長執行役員 久保 恒晃

## DX 戦略 進捗レポート vol.2

当社の DX 戦略の推進状況について、下記のようにご報告します。

### DX 戦略に基づく具体的な取組みについて

#### 営業、マーケティング活動における案件進捗管理の DX 化

各部署によって、個別フォーム利用および PDCA 管理を実施していたものを全部署共有のクラウドサービスを導入します。(一部部署にて先行利用を開始しました)

全部署のデータを一元管理することにより、データ分析基盤の AI を用いて分析が可能となり、案件対応の最適化およびスピード化を図ります。また過去の担当者別の行動・商談情報等について AI を用いて分析することにより、営業ノウハウの形式知化を進めていきます。

#### エンジニアリングにおける「設備管理」「設備監視」の DX 化

「設備管理」機能では設備の修理履歴および部品の在庫管理をデジタル化することにより、過去の修理履歴や修理時の部品を探す時間のムダを省き、さらに棚卸時間の削減を行います。将来的にデータ分析基盤の AI を用いて分析することにより、データに基づいた予防・予兆保全が行えるようになる見込みです。

「設備監視」機能では、これまでスタンドアロンの状態であった制御機器を可能なところからネットワークと接続し、生産条件をどこにいても確認できる状態としました。これにより、設備・品質トラブル発生時の原因調査から特定までの時間短縮を目指します。また、蓄積されている製造条件と品質のデータをデータ分析基盤の AI を用いて分析することにより、品質バラツキの真因の短期間での特定を行い、品質の安定・再現を目指します。

## 製造業務における紙面日報の DX 化

量産開始後の膨大な原料・生産に関するデータは紙面による日報に記載、管理していましたが、タブレットを用い、デジタル化することとしました。紙面による管理では利活用されにくかった様々なデータについてデータ分析基盤の AI を用いて分析することにより、生産管理の向上(生産レートのアップ、原料ブレや季節要因による最適生産条件の検討等)および担当者のノウハウ(熟練工の技術継承)の形式知化を進めます。また生産活動の中で確認できた様々なデータの挙動から、新製品のヒントを効率的に得るために AI を活用し、開発品の提案までのサイクルの短縮を目指します。

今後益々、お客様や地域社会、従業員に喜ばれる企業を目指して、これからも、ミッションの遂行、ビジョンの実現、バリューの強化を図るため、DX 戦略を推進してまいります。

——— お問い合わせ: デジタルイノベーション推進室 データインテリジェンスグループ ———